

第5学年 社会科学習指導案

指導者 ○○ ○○

1. 単元名「私たちの暮らしを支える情報」～小単元「情報化社会を生きる」

2. 指導観

- 本学年の児童は、日常生活において、テレビや新聞等のメディアを通して、社会の動きや人々の様子を見聞している。また、ブロードバンド環境の進展により、パソコンが一家に一台の時代が到来し、インターネットに接続してWEB上から多くの情報も得ている状況である。このように中、多くの児童は、自分の生活と情報とのかかわりの中で情報のもつ役割や情報技術の働きの重要性にも目を向け始めてきている。

本小単元に関する事前の意識調査によると、「災害等で情報が必要なときに、伝わらなくなったらどうなるか想像できるか」ということについて、約9割の児童が「とても想像できる」「少し想像できる」と回答し、情報の大切さについてのイメージはだいたいの児童がもっている。しかし、具体的に起こる事態については明確にできておらず、情報のもつ役割についてしっかり認識しているとは言えない。また、「いろいろな産業の中で、コンピュータ等の情報通信機器が使われているものを知っているか」ということについては、約8割以上の児童が回答できておらず、産業と情報とのつながりについては目を向けている児童はほとんどいない。さらに、「情報を受けたり、伝えたりする場合に日頃から気を付けていることがあるか」ということについて、「気を付けている」と回答した児童は約2割弱にとどまり、情報活用について自分なりにルールやマナー等に対する意識はまだ低い。

- 本小単元は、「わたしたちの暮らしを支える情報」における、放送、新聞、電信電話などの産業と国民生活とが深くかかわっていることや、それらの産業に従事している人々の工夫や努力に対する理解を踏まえ、今日の情報社会に生きていく私達にとって必要なことはどんなことか考えていく単元である。ここでは、資料を活用しながら、産業が国民の生活に大きな影響を及ぼしていることや情報の有効な活用が大切であること理解させることを主なねらいとしている。さらに、そのことを学習する過程において、情報化社会においては、情報を伝える側にも、情報を受け取る側にも注意すべき点があることをとらえさせることも重要である。

これらのことは、児童自ら情報モラルを身につけ、望ましい態度で情報社会を生きていくことにつながっていくものであり大変意義深いと考える。

- 本小単元の指導にあたっては、人々の暮らしや産業と情報とのつながりを調べることを通して、社会における情報や情報技術のもつ役割を理解することができるようにするとともに、社会科学習と関連を図りながら、情報モラル指導カリキュラムで設定した情報モラル育成のねらいを達成できるようにしていきたい。

そのために、まず、阪神淡路大地震によって壊滅した家屋や電信柱、交通施設等の様子を提示し、災害時は情報収集や伝達が困難な状況に陥ることに着目させ、正しい情報が人々にとって必要不可欠であることを理解させる。

次に、インターネットのWEBサイトを活用し、日本の産業がコンピュータを中心とした情報

通信機器とどのように結びつき、社会の中でどのような役割を果たしているかについて調べる活動を設定する。WEBサイトの活用については、教師が予めいくつか選定してサーバーに保存おき、その情報を必要に応じて取捨選択し、パソコンから閲覧できるようにしておく。

そして、人々のくらしや社会において不可欠となっている情報の、その受信と発信のあり方について、資料をもとにその問題点を提示し、情報を送る側と情報を発信する側の心構えについて考えさせ、情報の有効活用の大切さに気付かせていく。

さらにその後で、既習事項や自分の経験をもとに、情報社会が抱える今日的な問題に対する討論を行う場を設定する。討論では、現在賛否がわかれている小学生の携帯電話の所持について話し合い、情報や情報通信機器に対する見方や考え方を自分なりに広げたり深めたりできるようにし、情報社会をよりよく生きていこうとする素地を養っていききたい。

3. 単元の目標

- 人々のくらしや産業と情報とのつながりを調べることを通して、社会における情報や情報技術のもつ役割を理解することができる。 (正しい知識)
- 情報や情報技術がくらしや産業に及ぼしている影響をふまえ、日常生活における適切な情報活用のあり方や情報通信機器とのかかわり方について自分なりに考えることができる。 (見方・考え方)

4. 計画 (全6時間)

配時	主な学習活動と内容	評価規準	教科等
1	○災害と情報について調べる。 ・地震で被災した家屋や道路、交通機関の様子について ・災害時に正しい情報を入手することの必要性について ・インターネットの今日の役割について	・情報が伝わらなかった場合について、それが生活にどのような影響を与えるかを考え、解決方法を見い出そうしている。	社 会
3	○産業と情報とのつながりについて調べる。 ・第一次産業、第二次産業、第三次産業と情報技術との結びつきについて	・情報とくらしや産業とのつながりを調べ、情報の果たす役割や責任について理解している。	
1	○教科書の資料をもとに情報を受けたり伝えたりする際の注意点について考える。 ・情報の取り扱い方について ・今日の情報に関する問題点について <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">情報の収集や発信における意図的に行われる不適切な行動や情報社会がかかえる問題点等について問題意識をもたせる過程</div>	・情報を受けたり伝えたりする時の注意点や情報の有効活用に大切さについて考えている。	

1	<p>○小中学生に携帯電話等を持たせないことが広がっていることについて討論する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話の所持や使用で気を付けることについて <p>求められる情報モラルの妥当性や必要性を納得し、それを自分自身の問題としてとらえるさせる過程</p> <p>獲得した情報モラルを日常生活で発揮していこうとする意欲とその具体的な見通しをもたせる過程</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話の適切なかわり方について自分なりに考えている。 ・日常生活における携帯電話のよりよい使い方の見通しを自分なりにもっている。
---	---	---

5. 本時の目標

- 携帯電話の所持に関する討論を通して、自ら発信する情報や携帯電話のよさ及び問題点についての見方・考え方を広げたり深めたりすることができる。
- 日常生活において、情報通信機器とのかかわりをよりよいものにしていこうとする気持ちをもつことができる。

6. 本時指導の考え方

本時指導にあたっては、小中学生が携帯電話を持つことに対する賛否を問う討論の場を設定し、情報の活用の仕方や携帯電話の使用に関する見方・考え方を広げたり深めたりすることができるようにするとともに、日常生活において、情報通信機器とのかかわりをよりよいものにしていこうとする意欲をもつことができるようにしていきたい。

そのために、まず、前時学習を振り返りながら、情報を伝える側も受け取る側も正しい知識や心構えが必要であるにも関わらず、小中学生の中で携帯電話にまつわる不適切な情報のやりとりが起きている事実を知らせる。そのことから、小中学生は携帯電話を持つ必要はないのではないかという意見が起きていることにふれ、討論の議題を提示し、学習のめあてを設定する。

次に、討論に先立って、自分なりの根拠を明確にして議題に対する賛否を表明させる。しかし、携帯電話を持っていない児童もおり、根拠を明確にできないことも予想できるため、机間指導を十分に行い、全員が根拠を明確にできるように支援していきたい。

そして、賛成と反対にわかれて討論を行っていくが、現在携帯電話持っている児童の発言が多くなることが予想されるため、持ってない児童の考えを多く引き出せるように留意する。また、賛否の根拠となる考え方が比較しやすいように、発言内容を分類整理するなど板書を工夫していく。

最後に、討論を通じて携帯電話の使用に対する自分の見方や考え方の変容をふり返るとともに、携帯電話を持っている児童だけでなく、持ってない児童の両方の意見をできるだけ多く交流し、日常生活における携帯電話とかわり方について自分なりの見通しをもてるようにしていきたい。

7. 準備

教師：ノートPC，学習プリント，提示資料，既習学習をまとめた掲示物

児童：これまでの学習プリント，筆記用具

9. 学習の展開 (6/6)

学 習 活 動 と 内 容	指導上の留意点(・)や主な支援(○)評価(※)
<p>1. 前時学習を振り返り、本時学習のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">めあて</p> <p style="text-align: center;">けいたい電話の使い方や情報とのかかわり方について考えよう。</p> </div> <p>2. 携帯電話の所持について討論する (討論の進め方①～⑥)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>①議題について賛成か反対か意思表示をする。</p> <p>②自分の意思についての根拠を明確にする。</p> <p>③賛成と反対にわかれて討論する。(一斉)</p> <p>④賛成と反対にわかれて討論する。(少人数)</p> <p>⑤自分の考えを再考し、交流する。</p> <p>⑥最終意思を表示し、討論を終了する</p> </div> <p>3. 討論を通して学んだことをまとめるとともに、今後の携帯電話とのかかわり方への見通しをもつ。</p> <p>4. 本時学習を振り返り、自己評価をする。</p>	<p>・ 情報を送る側と情報を受け取る側の心構えについてまとめたものや、携帯電話にまつわる不適切な事例を提示し、本時では携帯電話の所持に対する討論をしていくことを知らせる。</p> <p>※前時学習とつなげて討論の目的を理解できている。 (観察, ノート分析)</p> <p>○賛否に対する根拠が書けない児童については、個別に既習事項やこれまでの知識や経験を振り返るように助言し記述を支援する。</p> <p>※根拠を明確にして自分の考えをもっている。 (発言チェック, ノート分析)</p> <p>・ 討論時間を計時ソフトで大きく表示し、活動時間の経過を見えるようにしておく。</p> <p>・ 児童の発言内容に具体性に欠ける部分がある場合は、教師側から補足の質問等を行い、内容をより分かりやすくしていく。</p> <p>・ ここでは、日常生活における情報モラルの実践に向け今後の携帯電話とのかかわり方について自分なりの見通しをもたせるようにする。そのために携帯電話を持っている児童だけでなく、持っていない児童の意見も出し、両方の意見をできるだけ多く交流したい。</p> <p>※討論を通じて情報や情報機器に対する自分の見方・考え方を広げたり深めたりできている。 (発言チェック, ノート分析)</p> <p>※携帯電話との望ましいかかわり方についての見通しを自分なりにももっている。 (発言チェック, ノート分析)</p> <p>○自己評価は、客観的に評価できるように項目選択で行うようにする。</p>